

2003年12月15日

発行 三重県立^{こども}小児心療センター あすなろ学園 広報担当
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL. 059-234-8700 FAX. 059-234-9361

合同講演会・シンポジウム報告

2003年8月26日、三重県総合文化センター中ホールにて、あすなろ学園と三重県自閉症・発達障害支援センターの合同で、講演会とシンポジウムを開催しました。テーマは「自閉症児・者とととも～地域で生きる～」とし、基調講演、シンポジウムの2部構成で行いました。

今回は、第1部の基調講演について簡単に紹介します。



講師紹介

内山 登紀夫 氏

大妻女子大学人間関係学部助教授
よこはま発達クリニック院長

三重県生まれ。児童精神科医。1994年ノースカロライナ大学 TEACCH 部に留学。1997年から98年まで The Center for Social Communication

Disorders にてローナ・ウイング、ジュディス・グールドよりアスペルガー症候群の診断、援助を学ばれました。現在、発達障害専門のクリニックを運営し、発達障害の診断・評価・援助のプランの作成を行っています。

基調講演：TEACCH で学んだこと・日本で活かしたいこと

TEACCH というのは、「自閉症及び関連領域のコミュニケーションに障害をもつ子どもと成人の治療と教育」というテーマで、「教える」の teach に引っ掛けています。本部はノースカロライナ大学 TEACCH 部にあります。

TEACCH では、「自閉症は生涯にわたる発達障害」、また「自閉症＝認知障害」と理解しています。認知障害があるために、社会性、コミュニケーション、行動（例えばこだわり）、感覚過敏など重い問題が症状としてみられます。これらに対して子どもの弱点を補うように大人の側、あるいは環境の側を変えるというのが TEACCH の斬新なところ です。

自閉症の障害の本質は、情報処理不全になりやすい、情報処理の偏りです。これは子どもの生活全体を支配してしまうような重い認知障害です。例えば、「問題行動」というのは、問題行動ではなくて情報処理ができていないから起こることなのです。そうしてしまうのは、情報処理ができないような環境にいるからである、と理解します。では、どういうことがその子にとって理解できないのか、納得できないのか、そういう視点で出発し、理解と納得をしてもらえる構造化された環境とは、その子にとってはどういうものなのか、を